

「子供の居場所づくりを中心とした子育て支援と団地再生事業」
応募状況、審査委員会および、実行団体の事業概要など

新型コロナウイルス感染症及びウクライナ情勢に伴う原油価格・物価高騰の影響により、行政では対応困難な様々な社会的課題が生じています。また、少子化が急速に進行する中で、子育てに課題を抱える家庭へのきめ細やかな支援など、現行の行政施策では十分に対応できていない社会的課題への支援ニーズが高まっています。資金分配団体として一般社団法人コミュニティネットワーク協会は、休眠預金を活用した民間公益活動の促進の一環として、「子供の居場所づくりを中心とした子育て支援と団地再生事業」に関する実行団体の公募実施に関する応募状況、審査委員会、応募した実行団体および事業概要等について、以下のとおり公表します。

1. 応募状況

(1) 公募期間

2024年3月12日(火)～2024年3月26日(火)

(2) 応募総数

17件

2. 審査委員会

(1) 開催日

2024年4月1日(月) 10時～13時

(2) 審査方法

第三者の専門家による審査委員会を設置し、審査委員により本事業の「実行団体公募要領に記載した選定基準」に基づいて書類選考を行います。

3. 応募実した行団体および事業概要等

実行団体 No.1

団体名	有限会社まごのて
所在地	岩手県盛岡市
申請事業名	子供の居場所づくりを中心とした子育て支援と団地再生事業 ともにつなぐ地域づくり
事業の概要	<p>地域の中で「移動販売」を行う事で、高齢になり買物に行けない方々など、買い物難民になりうる人達のサポートを行う。また、高齢になり作った作物を売れない方々の野菜を頂くことで安価に野菜の移動販売が出来る。また売り上げの一部を農家さんに還元する。売れ残った野菜等は子供食堂での食事材料やフードパントリーに寄付して無駄にしないように循環させる。</p> <p>「コミュニティカフェ」を団地の中で運営する事で、参加者の会話の中や情報から地域内の課題を見つける。また高齢者の支援・見守りにつなげる。</p> <p>「駄菓子屋・キッズスペースの開設」を行う事で子供の居場所づくり、子供に寄り添う環境づくりをする事で誰にも言えない事の相談を受けられる関係づくりに努める。</p> <p>「安価な食堂の運営と食の提供」をする事で、一食 100 円程度限定 30 食の提供（様子を見ながらランチタイムから始め、モーニング・ディナー時に対応）他にももう少し高めにはなるが食事を安く提供できるように努力する。子供たちだけでなく地域内の生活困窮者や子育て支援・物価高騰による生活困窮について支援する。</p> <p>これらの運営の為に、100 円のパンを移動販売しその売り上げから 10 円運営資金に充てる。また、カフェでの食事代金から 10 円を運営資金にあてる。他にも同様の活動をしてくれる団体と手を組み。この後も団地内で継続できるように整える。</p>

実行団体 No.2

団体名	一般社団法人日本ショーファー協会
所在地	埼玉県さいたま市中央区
申請事業名	子供が気軽に立ち寄れる居場所づくりと傾聴や食料・就労支援の拠点となる多世代交流型コミュニティの構築 ～年齢や属性に拘わらず孤独孤立を解消するための継続的な団地再生事業～
事業の概要	<p>近年、高齢化や近隣店舗の撤退により団地の陸の孤島化が急速に進んでいます。団地に住む高齢者や子育て世代の家庭では物質的な孤立のほかに経済的な理由から社会的な孤立に陥りやすい状況となっています。</p> <p>このような現状に、私たちは1998年から行っている無償食料支援（フードパントリー活動：フードバンク活動団体として農林水産省に登録済み）と食料支援時に行ってきた傾聴・ゲートキーパー活動（自殺防止活動）の経験を活かして、団地を中心とした地域社会の再生と交錯する諸課題の解決を住民の皆さんと手を取り合って進めていきたいと考えています。</p> <p>具体的には、ひとり親家庭や多子家庭と子供・独居高齢者・障がいをお持ちの方・外出が困難な方・ひきこもり当事者とその家族等の団地と団地周辺に居住するすべての社会的困難を抱える方の課題解決のために</p> <p>①食事提供・学習支援を定期で行い子供から高齢者まで気軽に立ち寄ることができる居場所（コミュニティカフェ）を開設します。駄菓子コーナーの設置、食料提供、登録者が無償で使用できる「食品自動販売機（24時間稼働）」を設置し、いつでも支援が可能な仕組みを作ります。</p> <p>②テーマを決めた月1回のイベントでは、世代を超えた繋がりや楽しみを共有できるワークショップ等の催しを企画します。イベント時の食事提供はキッチンカーを手配し非日常体験できる取組みとします。食中毒防止から自家調理は秋以降に実施し食事提供には管理栄養士と食品衛生責任者の管理の下で衛生管理を徹底して行います。また、お腹を満たすだけでなく季節を感じ食べる楽しみを学ぶ「食育」を行います。</p> <p>③社会福祉協議会や地域包括支援センター・介護支援専門員協会と連携して日常生活の相談を受ける活動を行います。</p> <p>以上を1年間実施して喫緊の課題が解決できる取組みとし、次年度は地域の企業団体の支援も受けながら継続して地域社会に貢献する活動とします。</p>

実行団体 No.3

団体名	特定非営利活動法人 MiKO ネット
所在地	埼玉県三郷市
申請事業名	M i K O ネット☆みんなの広場 放課後子ども広場、学習支援、子ども食堂、乳幼児おやこ広場、子どもと高齢者の交流広場
事業の概要	<p>○「放課後子ども広場」・あそび広場 77回 ・内学習支援 46回 対象：小・中学生 ・小学生が歩いて行ける場所に放課後の子どもの集いの場・居場所を設置し、子どもが異年齢・異なる学校の子どもの同士交流し、群れてあそび、コミュニケーション能力や協調性を養う。遊びの場の他、有料の塾に行けない子を対象に、指導者による学習支援もおこなう。</p> <p>○「乳幼児の親子の集う場」 ・みさと団地は外国籍の住民も多く、乳幼児を子育て中のママの集う場が不足しているので、居場所をつくる。 ・22回開催</p> <p>○「子ども食堂」 ・月2回 ・先着100名 子どもにカレーなどを配食（無料）ひとり親世帯や生活困窮者は優先（現在行っている活動で名簿あり）</p> <p>○子どもと高齢者の交流 ・高齢者サロンで作成した絵本を拡大模写した「布芝居」を近隣の保育園や小学生、高齢者に高齢者が披露し、鑑賞し交流する。 ・団地居住者は、庭がないので、プランターでガーデンレタスマックスの種を蒔き育て、交流発表会を行う。</p> <p>○子ども夏まつり ・年1回 子どもスタッフが企画し、夏まつりにふさわしいあそびコーナーを設置、近隣の子どもたちに来場してもらう。</p> <p>○困り事相談業務 子育ての悩みや生活の悩みの相談窓口を常時設け、必要があれば行政に繋げる。</p>

実行団体 No.4

団体名	NPO 法人ゲートキーパー支援センター
所在地	兵庫県伊丹市
申請事業名	市営住宅の空き家を利用した「みんなの居場所」
事業の概要	<p>【居場所】 こどもの居場所 15:00～20:00 を想定 週 4 回程度 机のあるコーナーと、和室などのゴロゴロできるコーナーを作る。見た感じ、雑談などを通して困りごとを把握し、必要なときは相談にのるなど、支援につなぐ。本や漫画を置く。雑談、勉強など自由に過ごせるよう工夫する。ボードゲームなどで交流をはかり、年齢や校区にこだわらない人間関係を作る。学生の有償ボランティア（居場所のイベント案）web リテラシー講座、コミュニケーションのコツ講座、皆で作る部屋活動（一緒に居場所を作っていく）。学生生活向上委員会、（スペシャルイベント案）大阪プロレスと子供との交流（団地内や近隣で開催できるかの交渉はこれから）</p> <p>【安価な食事の提供】 16:00～20:00 週 3 回 コープ神戸と連携して、大人 500 円 子供 100 円で実現できるよう構築する。夕食を想定。（これから内容は検討する）【駄菓子コーナー】 食事のコーナーの近くに設置 最初は小さなコーナーでスタートするが、子供の意見を聞きながら充実させていく。</p> <p>【相談機能の設置】 週に 1 回、年齢や地域を問わず、幅広い相談を受ける。キャリアコンサルタントや、公認心理師などの専門スタッフを配置。困りごとを短期的な視点と長期的な視点に分けて寄り添う支援、具体的な支援、繋ぐなど一緒に整理をしていく。居場所や食堂スタッフも気軽に相談にのれる大人として、声かけなども行い、問題を感じたときは、週 1 度の専門相談につなぐ。居場所や食堂の空き時間を利用。</p> <p>【ボランティアの醸成】 子供の居場所前の時間 11:00～15:00 に子育てママや地域の高齢者などの居場所を行う。その中で、夕方の食事提供のための下ごしらえなどのボランティアや協力者を発掘・活動に結び付ける。ひきこもり期間があり、再就職に不安な層にも、短時間（1 時間でも OK）で就労体験ができる場として提供。</p>

実行団体 No.5

団体名	特定非営利活動法人アクセプト・インターナショナル
所在地	東京都中央区日本橋堀留町
申請事業名	外国・イスラム教にルーツを持つ子どもと保護者の社会定着促進事業 地域で見守る子育て支援
事業の概要	<p>本事業は、脆弱性の高い外国にルーツを持つ子どもとその保護者の社会定着促進事業と題し、特にイスラム教にルーツを持つ子どもとその保護者に焦点を置いた取り組みを行います。居場所を展開する地域には築60年の巨大団地「桐ヶ丘団地」があり、一部集住しているイスラム教徒のそのほとんどが子育て世帯であり、居場所利用者の多くは当該団地に住む外国人となります。</p> <p>特に、在日外国人として幼少期から日本で育ったイスラムにルーツを持つ子どもとその保護者を直接受益者とし、彼らを取り巻く地域社会を巻き込んだ包括的支援を実施します。老朽化の進む桐ヶ丘団地は空き室が多く家賃も安価のため、外国人住民が年々増加しており、自治体も外国人支援を充実させ多文化共生の施策を展開しているもののイスラム教徒の方々への支援体制は未熟であります。これは宗教慣からくる様々な制限が支援者の介入を難しくさせていることが私たちのこれまでの活動からわかっています。</p> <p>ゆえに本事業では、①直接対象者が安心して自己表現できる第3の居場所で、複合的なアイデンティティを形成しながら周囲の人々と関わることに前向きな気持ちを持っている状態、②居場所を通して適切に行政サービスに繋がっている状態、③地域の支援団体や地域コミュニティ等多様なステークホルダーが直接対象者の課題を理解し、コミュニティ全体で問題解決に向けた機運を高めている状態になる事を目指し、社会において脆弱性の高い外国にルーツを持つ子どもとその保護者が地域社会で活躍できる体制を構築します。</p>

実行団体 No.6

団体名	鶴が丘一丁目町内会
所在地	宮城県仙台市泉区
申請事業名	子ども達の“家”と“庭”になる「子育て拠点」をコミュニティでつくる「地域団欒」活動事業
事業の概要	<p>住み慣れた地域で居住者の高齢化と共に少子化が進展し、子ども達の元気な声が地域から消えコミュニティも減退する中、子育て世代を中心にひとり親世帯や共働き世帯が急増し、親の長時間労働や経済的不安定なども重なって子どもが生活不安に晒され、塾やレジャー等にも行けず地域から孤立する社会問題が発生しつつある。さらに近年はコロナ禍や原油価格・物価高騰を背景に経済的苦境が立て続けに襲い、子どもをもつ家庭の生活困窮は益々進行し、問題は深刻化する傾向にある。本地域ではこのような状況が常態化し、子育て世代が抜け落ちた歪な社会になる前に、地域自らが目をそらすことなく身近な子育て世代の困難にも手を差し伸べ、コミュニティとしてもできることを心がけていかなければならない。本事業はコアとなる取組みとして、当町内会でこれまで繰り広げてきたお茶の間学習などの経験を活かして、地域住民と大学生とが支え合っ子ども達のより安心できる環境を創り出し、子どもの健やかな成長を多世代でサポートしていく地域活動を行うものである。各家庭に“家”と“庭”があるように地域にも子ども達が集える“家”と“庭”をもつ子どもの居場所をつくり、そこを「子育て拠点」として、子ども達の「学び」・アウトドアの「遊び」・季節風味の「食」について一年を通して多世代で体験でき、地域との結びつきも実感できる「地域団欒」活動を繰り広げていく事業である。これにより、どの子ども達も社会とも断絶することなく、日常生活を友達や学生・地域の人と共に元気で楽しく過ごせ、心身ともに成長し未来の担い手となる若者の育成に貢献していくことをめざしている。参加する大人も高齢者も子ども達と交流し体を動かすことで健康的となり、今後のコミュニティの維持・活性化にも貢献し、高齢化した団地を若返らせ再生させる大きな目標に向けて歩を進めていくその先駆的な事業展開を行うものである。</p>

実行団体 No.7

団体名	株式会社ブレイン
所在地	東京都渋谷区
申請事業名	子供の居場所づくりを中心とした子育て支援と団地再生事業
事業の概要	<p>こどもが過ごす新しい放課後の場所「まつまる寺子屋 GLOCAL POINT (仮)」の運営を行い地域のニーズ・課題解決に努めていく。</p> <p>「まつまる寺子屋 GLOCAL POINT (仮)」ではあらゆる家庭のこどもが 10 円を握りしめて集まれる駄菓子コーナーをこどもたちの新たな居場所(たまり場)とし、スタッフとの気軽な接点を作る。</p> <p>そして、こどもを中心に安価で食事ができる場所を提供し、コミュニティダイニングの定期開催を通し、こどもたちが自由に食事と交流ができる場所を提供することで「経済的困窮など家庭内に課題を抱える子どもの支援」「日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援」に取り組んでいく。</p> <p>更に「まつまる寺子屋 GLOCAL POINT (仮)」では以下の複合サービス提供を行う。</p> <p>◆プログラミング教室、パソコン、スマホ教室</p> <p>◆英語塾、外国人との異文化交流</p> <p>各教室開催により「社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援」に取り組む、また異文化交流により「孤独・孤立や社会的差別の解消に向けた支援」を行う。</p> <p>◆課題解決 DX</p> <p>学びの情報共有アプリの運用などによる社会的課題に取り組む人材の育成、世帯間の交流活性化を行う。</p> <p>また定期的なアンケートによる、団地のニーズ・課題を収集しそれらの解決に向けたイベントを企画・開催を行い</p> <p>「地域の働く場づくりや地域活性化などの課題解決に向けた取組の支援」「安心安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援」を行う。</p> <p>スマホ、PC を使って世の中と繋がることも多いひきこもりのこどもに学びの情報共有アプリを通じ、社会と関わり、地域活動への参加のきっかけとなるよう支援を行う。</p> <p>これらサービス提供を通じて新しく創出されたコミュニティの中で、団地内の課題解決を相互支援によって行えるよう支援し、こども、住民が安心して過ごすことができる団地を創る支援を行っていく。</p>

実行団体 No.8

団体名	社会福祉法人こうほうえん
所在地	鳥取県境港市誠道町
申請事業名	永江地区子ども支え愛拠点整備事業
事業の概要	<p>子どもと高齢者を大きな柱として、居場所の提供、学習環境・食事環境の提供、交通手段の提供など様々な支援を提供する。</p> <p>住民の日ごろの居場所を設けるとともに、地域食堂など多世代交流が行われる場を併設することにより、高齢者の孤独感の解消や健康づくりにつなげ、さらには子どもたちの自己肯定感を育むとともに、課題を抱えている子どもの早期発見や見守りにも繋げていく。</p> <p>行政、地域住民と協力し、誰一人取り残さない地域子育てコミュニティをつくることで、「みんなが、みんなの子どもを育てる社会」を目指す。また、子どもから高齢者まで、すべての人に居場所と役割がある地域づくりを目指す。</p> <p>また上記に加え、将来的には、障がい者やシングルマザーなどの社会的弱者への住まいや就労の支援等を行い、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指す。空室が問題となっている市営住宅を借り上げて外国人や障がい者のシェアハウスとするなど、戸建て住宅の空き家を含めた活用方法等について行政に積極的に提案し、これまで培ってきた住民・行政・当法人の連携を活用し、住民・行政と協働で事業を進めたい。当法人の知見と人材を活用して本事業を行うことにより、子育てに限らず高齢者や生活弱者を取り込んだ地域の連携を深めるとともに、活動の担い手としての住民の参画を促進し、将来的には一般社団法人支え愛ネットながえが中心となって真の意味での住民の力による活動が継続できる体制へとつないでいきたい。永江地区と同様の課題を抱える地区は全国的にも多数存在すると思われるが、本事業が他の地区のモデルとなるような取組を目指したい。</p>

実行団体 No.9

団体名	NiEW 株式会社
所在地	東京都杉並区
申請事業名	TAMATAMA PROJECT みんなでつくる、多摩ニュータウンの地域コミュニティ
事業の概要	<p>多摩ニュータウンの団地に暮らし子育て家庭を主な対象に、食事の支援だけでなく、安心出来る居場所としてセーフティネットとなるコミュニティをつくり、自立を支援するプロジェクト「TAMATAMA PROJECT」を始動します。</p> <p>当団体の代表・柏井万作は多摩ニュータウンに生まれ育ち、2017年より同地の活性化を目的にした大型文化イベントを開催。昨年『TAMATAMA FESTIVAL』では約4万人が集い、地域の自治会や行政、団体も数多く参加するなど子どもからシニアまで幅広いネットワークを作り上げてきました。お祭りだけではなく、継続的に地域の課題を解決できるコミュニティづくりを行いたいと考えたこと、文化イベント内で子ども向けのスペース運営や企画づくりを続けてきたことが事業立ち上げの背景になります。</p> <p>具体的には、地域団体とも連携しながら多摩市の落合団地商店街の空き店舗を再活用し、子どもたちの居場所づくりを行います。気軽に立ち寄れるよう、地域に暮らすクリエイターと協同したワークショップやこども食堂を行うほか、駄菓子設置や図書スペース、遊びスペースなどとしても利用できる「こども広場」を開設。柏井が渋谷ヒカリエで運営していたカルチャースペース「MADO」や、WEBメディアの知見やネットワークを活かし、広報や地域外からの支援を募ります。</p> <p>スペースのオープンは6~7月を予定しているため、それまでは団地集会所など地域のスペースにて事業を実施します。また10月に開催する『TAMATAMA FESTIVAL』でも事業を実施することで成果拡大を目指します。そのほか多摩市文化芸術振興計画有識者会議のメンバーとして、多摩市の教育委員会を含むステークホルダーに協力を要請し、一人でも多くの子どもたちを支援することで、貧困問題の解決と、SDGs「住み続けられるまちづくりを」に取り組んでまいります。</p>

実行団体 No.10

団体名	一般社団法人 Lifeis
所在地	東京多摩市
申請事業名	全ての子どもたちの日常生活の景色を多様にする取り組み
事業の概要	<p>私たちは今まで医療的ケア児や重症心身障害児という様々な社会的困難を抱える子どもたちとそのご家族との関わりを持ってきております。その中で、その様な方々のコミュニティの希薄さや障害を個人やその家庭に押し付けている社会構造に課題を感じ、福祉サービスの提供という狭小的な課題解決ではなく、いわゆる「地域づくり」を行う事での根本的な課題の解消を目指していく必要があると考えております。</p> <p>そこで街の中に一人一人が「自分なり」に過ごせる場を設置し、その中で自然な関わりを生み出していく事で、互いを認識し、与え合いの関係性を築き上げる環境を整えていきたいと考えております。障害という目に見えるものがなくても、社会的孤立を抱えている子どもたちは多く存在しています。その実態を把握する事は簡単ではないですが、1つの指標として不登校児童数があります。稲城市内においても 2022 年 11 月時点では「小学生 61 人」「中学生 132 人」の不登校児童が居ると言われており、全国的な調査では不登校児童の多くが「無気力」状態にあると言われております。</p> <p>社会的孤立状態を解消するためには学校・家庭以外の居場所が必要と言われておりますが、それは特定の場ではなく、コミュニティが必要だと私たちは考えております。特定の場を作ってしまうと、場「以外」が生まれてしまいます。そうではなく、コミュニティを形成していく事で「場」に依存しない形で社会的孤立が解消される様に思います。まずは、私たちの事業所を「場」として捉え、駄菓子屋や誰でも食堂の運営・ワークショップの設計と運営等を行い、その中で様々な人たちが自分なりの形で過ごしてもらい、そしてそこに集う人たちが自主的に自分のタイミングでそこにある小石を拾う様な形を大切にして、互いに相談し合える様なコミュニティを生み出して行けるプラットフォームを作っていきたいと考えております。</p>

実行団体 No.11

団体名	一般社団法人めじろ台まちづくり協会
所在地	東京都八王子市
申請事業名	めじろ台住宅地の活性化と子育て支援の場づくり
事業の概要	<p>○めじろ台テラス移転と有償子ども見守りサービス： 子どもの居場所作りを主な事業とする。今借りている店舗よりも広い店舗に移り、子どもを有償で見守る場所、親子で遊べる場所として提供する。また、育児相談のできる場所にもする。これにより若い世代とのつながりを持ち、やがて多世代交流の場所へと発展させていく。現在よりも広い店舗になり当然家賃も高くなるため、いかに家賃分を稼ぐかが当面の課題となる。その課題がクリアでき次第、その店舗の知名度を上げて、子供から高齢者まで多世代が気軽に立ち寄り利用できる場所にする。</p> <p>○自治会館の利便性改善： めじろ台住宅地区中心部の活性化を目的として、現在検討をすすめている京王ストアのプロムナード、および自治会館とめじろ台テラスとの有機的な連携を実現するための一歩として、自治会館へのアクセス改善のための改修工事を行い、子どもの屋外の遊び場として活用することはもちろん多世代の交流の場とする。</p>

実行団体 No.12

団体名	特定非営利活動法人ダイバーシティ工房
所在地	千葉県市川市
申請事業名	地域と協働した子ども包括支援拠点の設立ならびに持続のための基盤強化事業 子ども食堂の機能強化を通して地域の子どものつなぎ直す
事業の概要	<p>本事業の対象は、1978年に日本住宅公団によって建設された公営団地である。</p> <p>当該団地において課題となっているのが、①多種多様な課題を抱える子どもの増加 ②そうした子どもを包摂できる機能の不在、である。①については、比較的安価で住居確保が可能なため、困窮世帯や外国人世帯が増加傾向にある。こうした世帯は自身の生活維持に精一杯であったり言語面での課題を抱えていたりすることによって、地域内でのつながりを作れず孤立してしまい、必要な情報を得られずに困窮が加速するリスクがある。こうした住民が気軽に他者と関わりを持ち、情報を得て活用したり支援を受けたりできるような環境づくりが求められている。②については、これまでも団地内において包摂的施設を運営する試みが何度かあったものの、いずれも数年程度で閉鎖している。継続に際して課題となるのは資金と中核的人材の調達であり、これらを継続的に生み出していける基盤を地域の中に創り出すことが必要である。</p> <p>本事業申請の契機は、4年前に立ち上がり、弊法人もボランティアとして携わる「塩浜子ども食堂」のオーナーから上記課題についての相談が寄せられたことである。オーナー自身上記課題の解決に意欲的であるものの、地域内で継続的に携われるスキルを持った人員を育成できず、活動拡大に苦戦している。本事業では、オーナーの協力を得て塩浜に地域の交流拠点を立ち上げ、弊法人職員がスタッフとして関わり運営ノウハウを落とし込むことで子どもの集まりやすい拠点を作る。また、学校・行政・自治会等と連携した広報活動を行い、課題を抱える子どもへ適切に情報を届ける。支援にあたっては、支援機関との定期的な情報共有により課題を抱える子どもの支援体制を地域に構築する。また助成終了後の運営継続を見据え、定期的な会議や勉強会の開催を通してスタッフのスキルを底上げし、資金調達や人員確保を地域住民主導で達成する。</p>

実行団体 No.13

団体名	一般社団法人無限
所在地	奈良県生駒市小平尾町
申請事業名	まほうの다가しやチロル堂×「団地ファクトリー」で多機能・多世代コミュニティづくり
事業の概要	<p>まほうの다가しや南チロル堂は、中学校と小学校のグラウンド沿いで運営する子どもの居場所だ。子どもたちは 100 円で駄菓子を買って楽しむことや、100 円で特製カレー（通常 500 円）やポテトフライ（通常 300 円）などを食べることができる。また隣接するお弁当ショップの 2 階はフリースペースとして子どもたちは（大人も）自由に利用できる。駄菓子屋の店番は地域の学生やシニアのボランティア。その方たちを「チロールさん」と呼び、この場所のシンボリック的存在になっている。チロル堂は運営者の自主努力で運営をしていくのではなく、地域の子どもの未来を地域の大人たちが関心を持って関わり、運営もみんなであっていき場所にしたいという思いから寄附の文化を醸成する活動や広報も積極的に行う。寄附をした人が自然とコミュニティへ参加していく流れも生み出したい。</p> <p>また、子どもの孤食や貧困の奥には母子家庭や親世代の貧困問題等も存在している。そのことも含めて地域での助け合いのシステムを構築する必要があると考える。南チロル堂に隣接する建物に新たな機能として設置したいのが「団地ファクトリー」。手仕事や内職的な仕事などを提供し、育児中のお母さんの隙間時間でも仕事をしてもらう。出来高性で報酬も支払い、貧困を抱えるシングルマザー等のご家庭の支えにもなりたいと考える。もちろん人と話をする機会を失いがちな高齢者さんなども対象だ。また、作業終了後にはホッとしてもらえるようにカフェ機能も設置し、コーヒータイムなども楽しんでもらう。福祉事業を運営しているスタッフとの日常の対話の中から、生活の困りごとや育児に関する相談なども引き出していけることも目指している。また隔月で「かわらばん」というコミュニティの新聞を発行。地域の回覧板や、掲示板での掲示などで情報を発信する。放課後に駄菓子屋に集まる子どもたちを中心にした地域コミュニティを醸成する。</p>

実行団体 No.14

団体名	合同会社 MichiLab
所在地	東京都多摩市
申請事業名	多摩ニュータウン 8 住区近隣センターにおける子ども・親子の居場所づくりと新しい時代の団地コミュニティの人的基盤整備
事業の概要	<p>多摩ニュータウン 8 住区近隣センターに立地する日本総合住生活株式会社の J Smile 多摩八角堂を空き時間に借用し、公共施設でカバーできていない夜時間帯の子どもや親子の居場所及び食事の提供を行います（図書館休館日の木曜日は小学校終了後の時間帯から）。</p> <p>食の機能としては、駄菓子の販売および弁当（外部から仕入れ）を提供し、社会的・経済的困難のある子どもへの食の提供にとどまらず、隣接する保育園のお迎え後の親子にも弁当の販売や居場所の提供も行い、夫婦共働きの家庭のサポートの機能も持たせます。</p> <p>居場所の機能としては近隣センターで提供できていない乳幼児の居る家庭の親子での利用及び質問のできる勉強スペース（木曜夕方まで）、夜間の勉強スペース（高校生くらいまでを想定）を中心に提供するところからスタートし、地域のニーズに応じて変更していく想定です。</p> <p>月 1 回程度、ワークショップ等の参加型のイベントを開催し、非日常の楽しみの提供の他、利用者相互の関係性を構築や新たな協力者にリーチすることを目指します。</p> <p>この事業の運営は、雇用したスタッフの他に広く地域の協力者にも広く関わって貰い、協力者から、自身でも新たな地域の取り組みを起こせる人材の育成を目指します。また、スタッフ及び協力者で日本総合住生活株式会社がこの地区で主催するイベントへの企画出展を目指し、実践を通じ協力者を地域で活躍できる人材として育成します。また、地域イベントへの出展を通じ、本事業の認知拡大やさらなる協力者へのリーチ、協力者のやりたいことの実現の場とします。</p> <p>居場所及びオンライン（曜日・時間問わず）で相談ができる窓口を設置します。この窓口は、多摩市の地域担当職員、地域協創中間支援組織（弊社運営）、日本総合住生活株式会社のコミュニティマネージャーと相互に連携しあらゆる相談にも対応できる体制とします。</p>

実行団体 No.15

団体名	特定非営利活動法人 Gumi
所在地	愛媛県松山市辰巳町
申請事業名	ユースセンターを活用した子ども家庭支援及び多世代のつながりづくり事業
事業の概要	<p>愛媛県松山市の中心部にある商店街にて「ユースセンターまつやま」を開設します。センターには「10代の子どもが自由に過ごせるフリースペース」「安価で食事が摂れる学生食堂」「多世代が企画・参加できるイベントスペース」を設置、活用して子ども家庭を中心とした「1日を笑顔で終われる地域づくり」に取り組みます。子どもや子ども家庭を取り巻く諸問題に対しては代表理事の古谷（社会福祉士）をはじめ、団体職員の有資格者がソーシャルワークを行います。また、支援が届きにくい子ども家庭やSOSが出せない子ども家庭に対しては、子ども食堂や学習支援のイベント参加のほか、フードパントリーによる食支援を兼ねたアウトリーチを行うことで、少しでも制度の狭間や複合的課題を抱える家庭支援を行います。</p> <p>ユースセンターがアクセスしやすい松山市中心部のアーケード商店街（銀天街）に位置すること、センターが定食屋の敷地に存在することで、子ども家庭だけでなく高齢者や障害者の参加も見込まれます。ユースセンターを通じて関係機関や多世代の地域住民とのつながりを構築し、被支援者の受援力やレジリエンスが向上の効果測定を行うほか、事業実施期間及び事業終了後もマイクロからメゾに向けたアプローチを展開することを目標とします。</p>

実行団体 No.16

団体名	特定非営利活動法人 KUSC
所在地	神奈川県横浜市緑区
申請事業名	こどもヒーローズプロジェクト in 竹山団地
事業の概要	<p>NPO 法人 KUSC と神奈川大学サッカー部は、横浜市緑区にある築 53 年の竹山団地に住み、団地内の空き店舗を自分たちで改装した食堂を拠点に活動しています。主な活動内容は、地域住民の QOL 向上と居場所づくりのために、介護予防教室、カフェ等の運営を学生が中心となって実施しています。</p> <p>この取組は、国交省や横浜市からも、大学生が中心となった団地再生の取組として、注目・評価されています。しかし、資金やマンパワー等のリソースが不足しているため、現状では、この取組を団地の住民全体にまで広げるには至っていません。そのため本事業計画では、困難を抱える子供若者の支援を基軸とした団地内の世代間流を活性化し、これまでの取組を団地全体に広げて行くことを目的としています。</p> <p>主な取組は以下の 4 項目です。</p> <p>①不登校やひきこもり等困難を抱える子供若者へのアウトリーチ型学習支援の実施</p> <p>これまで団地内の小学校と連携して進めてきた児童への学習支援に加えて、不登校やひきこもりの子供若者に対するアウトリーチ型の学習支援を、地域住民も巻き込む形で、アプリ等の教育ツールを活用することで実施します。</p> <p>②次世代型子供食堂の開設～農業体験と食育活動の推進</p> <p>団地内の食堂を拠点に、周辺地区の小中学校、高校、農家等と連携しながら、団地及び周辺地区の子ども若者の農業体験と食育活動を推進する次世代型子ども食堂を開設・運営します。</p> <p>③多世代交流型マルチスポーツプログラムの展開</p> <p>団地内の遊休施設に新たに改装するコミュニティ拠点を中心に、様々な運動スポーツを通じて子供から高齢者までの幅広い世代の交流と健康づくりを実現するマルチスポーツプログラムを提供します。</p> <p>④困難を抱える子供若者を支援するデジタルプラットフォームの構築</p> <p>①②③の事業計画を推進するため、オンライン上でアクティブラーニングのコミュニティを形成するためのデジタルプラットフォームを構築・運営します。</p>

実行団体 No.17

団体名	特定非営利活動法人わっぱの会
所在地	愛知県名古屋市北区
申請事業名	大曽根住宅の中の総合交流拠点「ソーネおおぞね」を活用した子育て支援事業
事業の概要	<p>2018年に誕生したソーネおおぞねでは当初より地域の子供や高齢者を含んだ地域住民の総合交流拠点として事業展開をしてきているが、その中で当会としては地域の子どもや高齢者を対象とした「ソーネみんなでごはん」という地域食堂の取り組みを毎月一回六年近く継続して行っている。更に一定数の地域の子供たちへの食糧支援、学習支援という取り組みも三年にわたって継続してきた。さらにソーネおおぞね内には駄菓子販売コーナーがあるなど、ダイニングカフェにおいてはキッズスペースが設けられ子供たちが来やすい環境になっている。加えて昨年6月以降は名古屋市青年会議所の協力を得て「みらいチケット」という取り組みを行い、子どもたちに無料の食事提供も行ってきた。こうした実績も含めて今回の事業においてさらに従来の活動を発展継続させることができるように行っていきたい。</p> <p>①ソーネおおぞねの協力を得てショップ内に駄菓子コーナーを充実させ、そのコーナーを中心とした子供コーナーを新たに設置する。その空間内居場所を設け子供たちとスタッフボランティアが交流できる場を作っていく。</p> <p>②いったん終了した「みらいチケット」を復活させ、さらに大勢の子供たちが利用できるような未来チケットへと活動を充実させていく。</p> <p>③「ソーネみんなでごはん」の活動を元のソーネホールを活用したみんなで食事を囲んで語り合う取り組みに変えていくと共に子供たちへの学習支援、レク支援なども行っていく</p> <p>④地域住民にこれらの総合的な取り組みを知らせていくイベントを月一回行ない、住民参加を促していく</p> <p>⑤これらの活動を通じて見えてくる課題を解決していくための相談機能の場を設ける</p> <p>⑥これまでソーネおおぞねでは地域住民に対してソーネかわら版を発行しているが、これに今回の取り組みの常設的なコーナーを設けたかわら版に変えることで地域に向けた情報発信を行っていく。</p>